

# 長野県共創デザインラボ ローンチイベント

2026年7月31日（金）@ 銀座NAGANO 2F イベントスペース

令和8年度からスタートした、企業・団体との連携・共創により社会課題の解決を目指す「長野県共創デザインラボ」。

首都圏企業の皆様に向けて、ラボの仕組みのご紹介や長野県との連携可能性を探る対話・交流イベントを開催し、23企業・団体と県職員 あわせて約50名が参加しました。



## 「長野県共創デザインラボ」の概要

県内外の企業・団体から共創提案を募集、対話を通じて様々な共創の取組につなげていく仕組みです。

「長野県との共創提案窓口」にいただいたご提案は、コーディネーターとともに実現に向けた検討や調整を行います。企業・団体の知見・技術を社会課題解決に活かせるよう、予算化を前提とした事業だけでなく、官民共創の様々な可能性を探り具体化を後押しします。

### 【ラボの4つの機能】

#### 1 官民連携の窓口

「長野県との共創提案窓口」をHP上に設置し共創提案を募集

#### 2 コーディネート・マッチング

関係各課とのマッチング実施  
コーディネーターが伴走支援

#### 3 外部連携・情報収集

協創/共創コンソーシアム point 0  
に自治体として初めて参画  
民間企業の知見を積極的に取り込む

#### 4 事例共有・成果発信

企業等と事業担当課が一堂に会する  
共創ネットワーク構築イベントや  
職員研修を通じ共創マインドを醸成



また、多様な業種の大企業が参画する「協創/共創コンソーシアム point 0（ポイントゼロ）」に、自治体として初めて参画。企業・大学・自治体の垣根を越えた実証実験、製品・サービスの事業化などを目指し、長野県からも地域課題や地域資源を共有し、双方向の情報交換から新たな連携を検討していく予定です。

## コーディネータートーク - 官民共創を3フェーズで考える -

官民共創の3フェーズ「地域選定」「対話」「実施」の課題とポイントをクロストークで深掘り。長野県との共創の魅力・可能性、官民連携の基本的な考え方・コツを共有するとともに、企業版ふるさと納税制度の活用も有効な手段であることを事例を交えてご紹介しました。

### ① 企業が長野県を共創先として選ぶ魅力・可能性は？

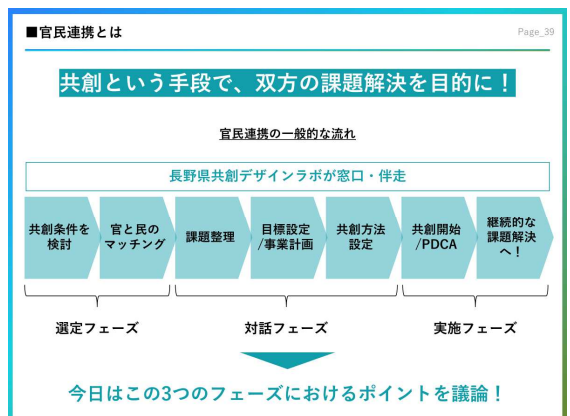
東京との近さ、豊富な自然資源と技術、ブランド力が強み。企業にとっての地縁・拠点の有無、プロジェクト・テーマへの共感に加え、共創事業をサポートする仕組みがあることが優位。

### ② 企業と行政が共創を実現させるコツは？

双方腹を割った議論をし、リソースを出し合えるかがカギ。「翻訳」役の役割は非常に大きい。企業の課題解決に繋がる連携ができるかも重要なポイント。共通のゴールを設定し、スモールスタートで実績の積み重ねを。

### ③ 案件を継続的に実施していく上でのポイントは？

持続可能な自走モデルの構築、人・資金の工面がマスト。企業版ふるさと納税は、企業と自治体との「共創」の仕組み。主従関係ではなくチームとして双方にメリットが生まれるwin-winの事業設計に。



## 長野県と接点を持っていただけの県事業紹介

企業・団体の皆様が長野県とつながり、具体的なアクションを起こしていただくきっかけとなる事業や拠点を、県の事業担当者から直接紹介しました。

### 産業労働部

- ・地域とのビジネス創出を目指す「**チャレンジナガノ**」
- ・地域を知る、滞在する「**信州リゾートテレワーク**」
- ・県内拠点開設を後押しする助成金や税制優遇等各種制度

### 観光スポーツ部

- ・2027年「**信州デスティネーションキャンペーン**」
- ・スポーツ起点のオープンイノベーションを目指す「**信州SOIPコンソーシアム**」

### 東京事務所

- ・県内と首都圏をつなぐ情報ハブとしての役割
- ・企業誘致・企業間取引の支援

### 銀座NAGANO

- ・県産品販売
- ・テストマーケティング
- ・長野県関連イベントの実施
- ・観光情報発信・移住交流相談

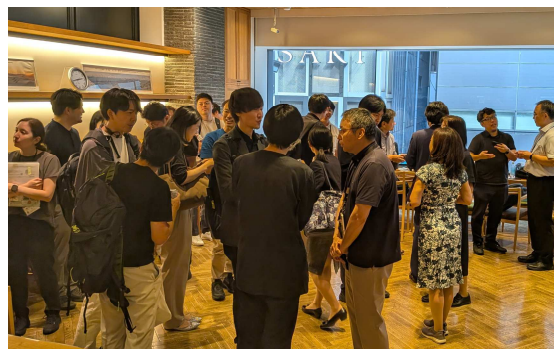


## Meet NAGANO！ 共創交流・意見交換会

希望者による企業ピッチと**参加者全員による名刺交換会及び意見交換**を実施しました。

長野県の特産品を囲みながら、企業の取組や県の施策・課題等について、参加者が自由に意見交換ができる交流の時間を設けました。

ピッチには6社（登壇順/略称：楽天、明治安田、こども食堂支援機構、丹青社、JetB、SNC）が登壇し各社事業や地域連携に向けた取組をご紹介いただきました。



参加者からは、

- ・県の新たな取組内容や考え方がよく分かった。**長野県の「共創」への姿勢に強く共感した。**
- ・県担当者と直接話すことができ、県事業への理解が深まった。**今後の具体的な連携に向けて対話を継続したい。**

などの声をいただき、今後の円滑な連携・共創につながる関係性を構築することができました。



## 長野県共創デザインラボコーディネーターより

今回のイベントでご紹介した各事業や拠点も活用し、“事業が生まれて継続できるまで”を皆様と共に考え、伴走支援していきます。

民間企業での経験も活かしながら、企業の皆様と長野県との新たな連携・共創を生み出し、長野県が今よりもっと素敵な場所となるよう全力で取り組みます。お気軽にご相談ください！

小口 潤



行政・企業・大学等、幅広いステークホルダーが、組織や業態を超えて、地域課題・社会課題の解決、新規ビジネスの創出に出会いと連携を求めていることを実感しています。ラボは、持続可能な連携事業の創出に向けて、丁寧かつスピード感をもった動きと受け止めていますので、政策側面からのサポートを通じ、皆様とご一緒できることを楽しみにしています。

笠井 泰士

